

地小出版
方小版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

『目でみるブラジル日本移民の百年』を刊行して 日本「近代」の足跡を追いかける

文・石井 雅

風響社がなぜブラジル？

事務所兼自宅の廊下に山のように積み上げられた本がある。出来上がったばかりの『目でみるブラジル日本移民の百年』である。小出版ではごく普通に見られる光景だが、小社をよく知る方には少し疑問が浮かぶことであろう。風響社がなぜブラジルなのかと。

小社は1991年創業以来、アジア関係の人類学・歴史学の専門書を中心に年十数点ほど刊行している、典型的な零細出版社である。そんな社が、現地の総力をあげた記念碑的の事業である「ブラジル移民百年史」(全五巻・別巻一)の発行所となったきっかけはというと、ミクロネシアであり満洲であった。

昨年のものである。サンパウロの友人からメールがあった。彼はかつて小社で出した『日本統治下ミクロネシア文献目録』(山口洋児著、2000年)の編集を手伝ってくれた院生の一人だった。その後、折りに触れメールを交わす間柄となったが、数年前からブラジルにJICA派遣のボランティアとして赴き、文化事業の支援活動をしている。

その彼が、今度はサンパウロで移民百年史の仕事に携わっているというのだ。第一弾として別巻写真集を準備していること、それを第一回移民船神戸出航百周年を記念して今年4月28日に刊行すること、などを聞かされ、その後、編集や流通その他の出版界の事情について質問を受けることとなった。



そうこうしているうちに、発行元にと打診していた大手版元から具体的な返事がこないこともあり、もし小社でよければと名乗りを挙げてしまったのが、発端だったのである。

小社のDNAに埋め込まれたもの

満洲はというと、筆者の駆け出し時代に関わった地域である。1980年前後、まだ引揚げた方達の多くが健在で、残留孤児の存在が知られ始めた頃であった。勤め先の設定した主題「望郷」に従い、多くの本を作ったが、満洲各地を歩き、さまざまな引揚げ体験をうかがう中で、日本とアジアの関わりを生きた歴史として実感するようになった。

しかし、そうした歴史を追究する機会はその会社では持ちえないまま、立ち上げたのが今の会社だった。すな

わち小社のDNAに埋め込まれたものは、日本や日本が関わった地域の「近代」だったということになる。

ブラジルに渡り異文化の中で苦勞を重ねた移民の人たちは、植民地統治の下でいやおうなく日本文化を受け入れざるを得なかった台湾や朝鮮などの人たちと立場こそ違え、日本という「近代」が生み出した多元文化的存在であることは確かであろう。

そうであれば、まぎれもなくこの仕事は小社の守備範囲だし、もし大手がしり込みしているとすれば余計に面白いとなる「へそ曲がり」は、伝統的な小出版のオヤジ文化そのものでもある。かくして、現地編纂委員会との二人三脚での作業が始まることになった。

一般向け別巻写真集は、日本語とポルトガル語のバイリンガル版

原稿はほとんど完成していたものの、具体的な作業となると課題は多かった。期限までに一万部作らなければならぬが、ちょうど半日ほどの時差がある中での作業、しかもすでに年末を迎え残された時間は少ない。

日本語世代が高齢化してしまったブラジルと、出稼ぎ家庭の多くが言語の壁を抱えたままの日本。こうした両国の事情から、一般向けに企画された別巻の写真集は、日本語とポルトガル語のバイリンガル版とし、どのような言語環境の家庭でも読んでもらえることを使命としていた。しかし、小社にポルトガル語の知識はほとんどない。

写真は編纂委員会で厳選されていたが、日系人としての意識やまとまりが薄れてきた近年のものは、体系的に収集されていない嫌いがあり、優れたデザイン性でカバーしなければならぬ。

しかし、そうした困難は容易にクリ

アされていった。小社は創業当初からDTPによる編集・組版を行っており、デザイナー事務所とソフトを共有することで編集や連携の効率を高めることができた。

現地との時差もかえってよかった。こちらが昼間作業した結果を夕方メールでブラジルに送ると、現地では朝から我々が寝ている間にどんどん作業が進み、その結果が翌朝メールで届いている。つまり二交代フル操業となって日程をこなしていったのである。

バイリンガル組版も現在のソフト・フォント環境では何ら問題なく、多言語に慣れていないデザイナーでもそのまま組み込めた。

こうして、予想した困難は容易に乗

り越えられ、印刷所への入稿はぎりぎりとはなったものの、東京と神戸で行われた百周年記念の式典で無事に披露され、6月に行われる現地式典に向けて送った本は船積みされ、ちょうど太平洋を渡っている頃である。

▽

さて、「作るは易く売るのは難し」とは出版界の不滅の金言(?)である。冒頭に記したように廊下に積まれた本の山をどのように減らしていくかが、本当の勝負といえよう。

地球は狭くなった。ブラジルからのメールで知ったという電話注文が飛び込んでくる。いやブラジル日系人にはすでに地球は狭かったのかもしれない。刊行の資金援助をしてくれたある

日系企業の創業者は、ハルビン生まれだった。現地役員の一人もやはり満洲引揚げ者で、夢を求めて再びブラジルに移住されたという。

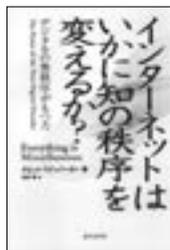
こうして生きた歴史を再び目の当たりにする事となった。小社の主題は変わらないが、フィールドは広がった。百年史全五巻という難事業はこれからだし、確たる販売見込みもないまま、現地とともに希望を込めて作った一万部を、単に商品としてだけでなく、家族や人の絆を深める種として、また文化交流の糧として、無駄なく広げていく仕事も残っている。

多くの方とネットワークを広げつつ、もう一頑張りしたいと思っている。(いしい ただし/風響社代表)

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『インターネットはいかに知の秩序を変えるか? - デジタルの無秩序もつ力』 ●デビッド・ワインバーガー著

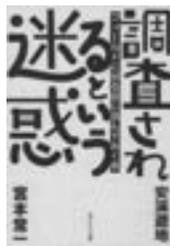


学問とは方法づけられた知識の体系である、かのデカルトが述べたように、古来学問は分類し体系化することに求められ、その集積庫たる図書館は、知を組織化するために様々な分類法を考案してきた。だから、18世紀に百科事典編集に当たってアルファベット順配列が議論された時、「神の秩序を侵した」との非難が巻き起こったという。ところが今、表現媒体のデジタル化と流通装置と

してのインターネットは、知識を「破片」とし、「物理的制約から自由になった知識」は、「美德としての無秩序」社会を生み出した。では、その向かう先はどこなのか。本書終章の見出しは「雑」である。

◆2520円・四六判・344頁・エナジクス・東京・2008/3刊・ISBN978-4-9903345-3-6

『調査されるという迷惑 - フィールドに出る前に読んでおく本』 ●宮本常一著



人類学、民俗学を学ぶ者にとってフィールド・ワークは欠かすことができない。本書はその実践にあたって特に留意すべき点を考察したもの。民俗学者で、幅広いフィールドワーカーで知られる宮本常一氏の調査に関する生前の一文が収録されている。また安溪氏は西表島や熱帯アフリカでの豊富なフィールド・ワークの体験を綴って問題を提起している。

両者とも調査する側と、調査される側の立場からいくつかの事例を交えて取り上げており、どのように接すれば、また心掛ければ目的に合った効果的なフィールド・ワークを行うことができるかを学ぶことができる。副題のとおり今後フィールド・ワークを目指す者にぜひ一読を奨めたい。

◆1050円・A5判・118頁・みずのわ出版・兵庫・2008/4刊・ISBN978-4-944173-54-9

『近代日本の植民地博覧会』 ●山路勝彦著



1970年の大阪万博は「人類の進歩と調和」をテーマに掲げたが、いかなる時代、国家においても、博覧会が国威の発揚を目的にしていることは自明のことである。戦前にわが国が台湾、朝鮮、満州で開催した博覧会はその典型で、植民地権力をむき出しに、「日本近代の姿を植民地住民に植え付けることに主眼が置かれた」。そうした、日本人の植民地に向けた眼差しと、国家の意図に焦

点を当てたものであるが、その裏づけとして、絵葉書、錦絵、ポスター、チラシ、パンフレットなどの大衆向け宣伝媒体を用いている点がユニークである。台湾では京劇に住民が熱狂し、統治方針の思惑が外れたことも明らかにする。

◆3150円・四六判・314頁・風響社・東京・2008/1刊・ISBN978-4-89489-125-8

売行良好書

期間：2008年4月16日～5月15日

[出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1) 『ちびくろ・さんぼ3』 1050円・瑞雲舎 (2) 『ゆりちかへ』 1365円・書肆侃侃房 (3) 『大切な食べものを無駄にしない本』 840円・ベターホーム出版局 (4) 『目でみるブラジル日本移民の百年』 2000円・風響社 (5) 『機能不全家族』 1600円・アートヴィレッジ (6) 『自閉症の子どもたちの生活を支える』 1575円・筒井書房 (7) 『自然農・栽培の手引き』 2100円・南方新社 (8) 『中国情報源 2008-2009年版』 3150円・蒼蒼社 (9) 『トモニコウ。』 1500円・アートヴィレッジ (10) 『合気修得への道』 2835円・合気ニュース (11) 『熊本城のかたち』 2100円・弦書房 (12) 『愛してるよ カズ』 1680円・長崎文献社 (13) 『人類の目覚め』 1365円・シェア・ジャパン (14) 『木喰さん』 1470円・石風社



[三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1) 『東京かわら版 5月号』 400円・東京かわら版 (2) 『モツ煮狂い 第2集』 504円・平成烏有堂 (3) 『続・埼玉の城址30選』 1260円・埼玉新聞社 (4) 『ハイキングガイド滝山城跡』 100円・揺籃社 (5) 『ブックオフが出版業界から嫌われるホントの理由』 735円・出版評論社 (6) 『あなたが「最近ブックオフに行かなくなった理由」を考える』 210円・出版評論社 (7) 『よみがえる滝山城』 735円・揺籃社 (8) 『酒とつまみ 10号』 400円・大竹編集企画事務所 (9) 『六十里越街道』 1680円・無明舎出版 (10) 『北海道の歴史がわかる本』 1575円・亜瑠西社

[ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1) 『広告批評 No. 326』 590円・マドラ出版 (2) 『本屋大賞2008』 580円・本の雑誌社 (3) 『とほ 2008-2009』 420円・とほネットワーク旅人宿の会 (4) 『anmitsu book』 680円・フリースタイル (5) 『旅する長崎学9』 600円・長崎文献社 (6) 『プレイング・セルフ』 2940円・ハーベスト社 (7) 『調査されるといふ迷惑』 1050円・みずのわ出版 (8) 『ザビエルと歩く ながさき巡礼』 1680円・長崎文献社 (9) 『猫の時間割』 924円・画房るる (10) 『正しいしゃれこうべの抱え方』 945円・アイデア出版局

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

トピックス — ★★

▼東京堂に地方小コーナー

5月16日にリニューアルオープンした東京神保町の東京堂書店ですが、3Fに〈地方小リトルプレス〉コーナーが新設されました。現在のところ約6000冊ほどの規模で、地方出版を中心に、アート、文芸、児童書、趣味・実用書、雑誌等も含めた総合的な品揃えとなっています。このうちセンターからは4000冊余りを出荷しています。今後の展開が楽しみです。東京堂書店ではこの他に、3Fに立花隆コーナーを新設したり、2Fの作家セレクト本棚コーナーを拡充したりと、リニューアルを機にお店の個性をより強く打ち出しています。

▼ノンカフェブックスのユニークな試み

昨年新規加入した兵庫のノンカフェブックスがkiss the past.kiss the now〈あの頃と今〉と名付けたシリーズの刊行を始めています。これは、作家のデビュー作を復刻するとともにその作品をリビルド(再構築)した書き下ろし作品を同時収録するというかつてない試みです。その第2弾として5月『壊音 KAION/症例イデム』(篠原一著 1470円)が刊行されました。作者は1976年生まれで、第77回文学会新人賞を当時史上最年少で受賞しました。このデビュー作とそれに自ら挑んだ書き下ろし最新作が同時に読めるという、ファンにはたまらない1冊です。

郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
 - ◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3~4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございました場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
 - ◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。
- ★地方・小出版流通センター
 FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM ~ 8:00 PM
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
 TEL. 03-3233-3312(代)
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

**営業の
ごあんない**

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

